

エコアクション21  
環境経営レポート  
(2023年11月1日～2024年10月31日)



2024年11月12日発行  
久野建設株式会社

# 環境経営レポート目録

1. 組織の概要	P.3
2. 対象範囲	P.3
3. 環境管理体制	P.4
4. 環境経営方針	P.5
5. (基準年の環境負荷と)環境経営目標	P.6
6. 環境経営計画の内容	P.7
7. 環境経営計画、環境経営目標の実績及び環境活動計画の 取組結果とその評価並びに次年度の取組内容	P.8
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.9
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.10

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所名及び代表者氏名

久野建設 株式会社  
代表取締役 久野 孝広

### (2) 所在地

神奈川県相模原市中央区田名2085

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 久野 孝広  
担当者 熊坂 みどり  
連絡先 電話 042-761-2373  
FAX 042-761-6130  
e-mail t-kuno@kunokensetsu.co.jp

### (4) 事業活動の内容

総合建設工事における設計・施工・管理・請負業務

### (5) 事業の規模

	2024年度
売上高 (百万円)	1,020
工事件数 (件)	3
従業員数 (人)	14
延床面積 (m <sup>2</sup> )	370

## 2. 対象範囲

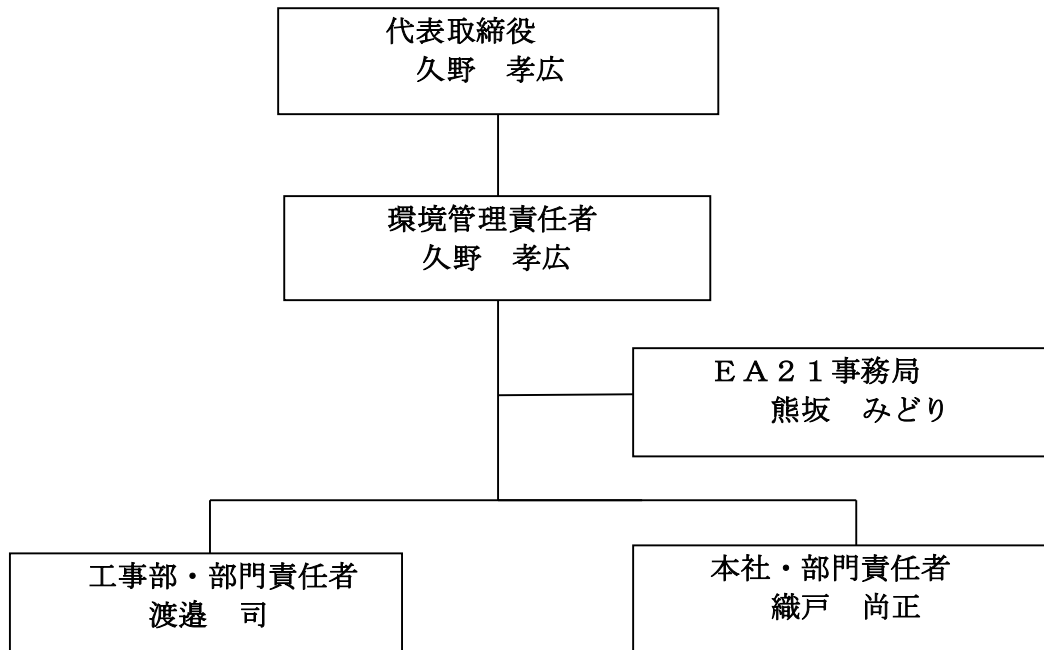
### (1) 認証・登録対象事業所

本社及び資材置場

### (2) 認証・登録対象活動

建築物の設計、工事監理及び施工

### 3. 環境管理体制



役職	責任及び権限
代表取締役	1、環境管理責任者の任命 2、環境経営方針の制定 3、環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 4、環境経営システムの定期的見直しの実施 5、経営における課題とチャンスの明確化 6、社内情報の外部公開可否決定 7、環境経営レポートの承認
環境管理責任者	1、環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2、社長への環境経営システムの実施状況報告 3、エコアクション21の事務局の責任者として事務局運営 4、それぞれの業務、役割に応じ、必要な教育、訓練を適切に計画、実施 5、関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6、環境関連文書及び記録の作成、整理 7、環境経営レポートの確認
EA21事務局	1、環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 2、環境目標、環境経営計画書原案の策定 3、環境活動の実績集計 4、環境経営レポートの作成
部門責任者	1、環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2、環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1、環境経営方針の理解と環境への取組の重要性の自覚 2、決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

## 4. 環境経営方針

### 久野建設株式会社の環境経営方針

#### <環境理念>

当社は社業によって及ぼす環境への影響を社員1人1人が認識し、継続的な環境改善により、企業の社会的責任を果たすべく積極的に環境保全と環境負荷低減に取り組めます。

#### <行動指針>

- 1、 二酸化炭素排出量の削減
  - ・省エネルギー活動により電気使用量及び燃料使用量の削減に努めます。
- 2、 廃棄物の発生抑制
  - ・事業活動に伴い発生する廃棄物を抑制するとともに、建設廃棄物リサイクル率向上に努めます。
- 3、 水使用量の削減
  - ・水の有効利用により水使用量の削減に努めます。
- 4、 地域環境保全活動の推進
  - ・地域環境活動に積極的に参加・協力・支援します。

※ 上記行動指針に基づき、環境経営目標を定め全従業員に周知します。  
環境関連法令・規制を遵守します。  
関係協力会社においても可能な限り協力を依頼し、共に活動します。

令和元年11月1日  
久野建設株式会社  
代表取締役 久野 孝広

5. (基準年の環境負荷と)環境経営目標

環境経営 目標	項 目	基準年(実績)	取組期間	中期目標		
		過去6年間の 実績から算定 (一部コロナを 加味)	23年11月～ 24年10月 対基準年 ≒1.5%削減	2023 年度 対基準年 ≒1%削減	2024 年度 対基準年 ≒1.5%削減	2025 年度 対基準年 ≒2%削減
1. 二酸化炭素排出量削減	CO2総量 Kg-CO2	78,000	76,800	77,200	76,800	76,400
①電力使用量の削減(本社・現場)	電力使用量 kWh	48,500	47,800	48,000	47,800	47,500
	CO2 Kg-CO2	21,437	21,128	21,216	21,128	20,995
②ガソリン使用量の削減(本社・現場)	ガソリン使用量 (L)	21,600	21,280	21,400	21,280	21,150
	CO2 Kg-CO2	50,112	49,370	49,648	49,370	49,068
③(軽油)使用量の削減(現場)	軽油使用量(L)	1,300	1,280	1,290	1,280	1,270
	CO2 Kg-CO2	3,354	3,302	3,328	3,302	3,277
2. 一般廃棄物排出量の削減(本社)	一般廃棄物排出量 Kg	580	571	574	571	568
3. 水使用量の削減(本社・現場)	水使用量 m <sup>3</sup>	550	540	545	540	535
4. 建設廃棄物リサイクル率向上(現場)	リサイクル率 %	40.0%	42.0% ≒2%UP	41.0% ≒1%UP	42.0% ≒2%UP	43.0% ≒3%UP
5. 地域環境保全活動の推進	クリーンアップ作戦、参加率 %	100	100	100	100	100

※CO2排出係数は 電力 0.442kg-CO2 ガソリン 2.32kg-CO2 軽油 2.58kg-CO2 を使用。

※当社は化学物質は扱っていない。

## 6. 環境経営活動計画の内容

当社の環境保全に向けた具体的な取組の内容を以下に示します。

### (1) 電気使用量の削減

- ① 使用していない照明やパソコンを消すことによる電力使用の抑制
- ② 冷暖房の温度の設定管理とエアコンの清掃

### (2) ガソリン、並びに軽油使用量の削減

- ① エコドライブの徹底
- ② 適正な車両の整備

### (3) 廃棄物排出量の削減及び建設廃棄物のリサイクル率向上

- ① 廃棄物の分別の徹底
- ② マニフェストの確実な発行

### (4) 節水の推進

- ① 節水意識の喚起
- ② 節水表示板の設置

### (5) 地域環境保全活動の推進

- ① 相模川クリーンアップ作戦への参加
- ② 地域環境啓蒙活動への協力支援

7. 環境経営計画、環境経営目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

環境経営計画	取組結果とその評価(2023年11月～2024年10月)			
	環境経営目標 (対基準年) ≒1.5%削減	実績	達成区分	評価及び次年度の取組内容
1. CO <sub>2</sub> 削減	76,800 Kg-CO <sub>2</sub>	58,999 Kg-CO <sub>2</sub>	○	・目標達成 ・引き続き意識を持って臨む
① 電力使用量削減 ・エアコンの温度管理 ・消灯の徹底	47,800 kWh	37,004 kWh	○	・目標達成 ・事務所内照明器具のLED化を更に進めて行く
② 燃料(ガソリン)使用量削減 ・エコドライブの徹底 ・車両の点検整備	21,280 L	15,931 L	○	・目標達成 ・車両老朽化による買い替えの際はハイブリット車とする
③ 燃料(軽油)使用量削減 ・エコドライブの徹底 ・車両の点検整備	1,280 L	1,360 L	×	・目標未達成 ・対象車両(2tダンプ)が購入より20年、走行距離10万Kmを超えているので買換えを検討する
2. 一般廃棄物排出量削減 ・廃棄物分別の徹底 ・両面印刷の推奨	571 Kg	531 Kg	○	・目標達成 ・引き続き業務効率化を進め排出量軽減を目指す。
3. 水使用量削減 ・節水意識の喚起 ・節水表示板設置	540 m <sup>3</sup>	612 m <sup>3</sup>	×	・目標未達成 ・節水意識の喚起を粘り強く行っていく。
4. 建設廃棄物リサイクル率の向上 ・副産物分別の徹底	42.0 %	46.2 %	○	・目標達成 ・分別の徹底を継続していく。
5. 地域環境保全活動の推進	クリーンアップ作戦参加率100%	参加率 100%	○	・目標達成 ・継続して参加していく

○:目標達成、×:目標未達

※次年度の環境経営目標と計画は、期初に策定した2025年度環境経営目標と同じとする



## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

承認	確認者
久野	久野

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	確認	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理、産業廃棄物マニユフェストの交付、置場内保管場所の掲示等	○	2024年 11月11日
建設リサイクル法	特定建設資材のリサイクル	○	11月11日
資材有効利用促進法	再生資源利用促進計画・利用計画の作成等 建設発生土の搬出先の明確化 (一定規模以上の工事)	—	11月11日
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	—	11月11日
自動車リサイクル法	自動車の長期間使用・リサイクル料金の委託	—	11月11日
騒音規制法	特定建設作業実施の届出・規制基準の順守	—	11月11日
振動規制法	特定建設作業実施の届出・規制基準の順守	—	11月11日
大気汚染防止法	特定粉じん(アスベスト)解体等工事に係る事前調査及び説明	○	11月11日
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、管理 冷媒用フロンの適正回収、破壊の措置	○	11月11日
消防法	消防設備(消火器)の点検結果報告	○	11月11日
相模原市火災予防条例	指定数量の1/5以上の危険物の貯蔵時の消防長への届出	—	11月11日
石綿障害予防規則	石綿を取り扱う業務等に係る措置 事前調査・作業計画・作業届等	○	11月11日

— 取組期間中は該当しない。

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は創業以来ありません。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

EA21取得より8年目を迎えた今年度の活動において、全体的なCO<sub>2</sub>は削減できたが軽油使用量・水使用量において目標未達となった。

軽油使用量の未達原因としては、遠方の案件(横浜市瀬谷区)受注というところが大きい。対象車両が1台しかない為、現場までの移動距離に左右されるところが大きいのは仕方がないところであるが、次年度以降の対策として対象車両もかなりの走行距離を乗っているため、資金的な余裕があれば高燃費の新車両への買換えを検討してみたい。

水使用量も未達となったが、改修工事など工事用水が施主支給の現場が多い事を含めた過去の実績よりの目標設定となっており、今年度においては新築工事受注のウェイトが大きかったため、支給が無く当社持ちの現場が多かったことが未達の大きな要因となっている。但し、本社における水使用量は減少となっている。

2項目で目標未達となったが、イレギュラーな要因に起因したものであり、全体としては本社においても現場においても環境経営活動の意識は浸透しており、成果は出ていると感じている。次年度以降も本社照明器具の完全LED化と保有車両の完全ハイブリット化の早期実現を目指すと共に、基本的な活動は継続的に行っていくこととする。

尚、環境経営方針・環境経営目標及び計画・実施体制については変更の必要性はないものとする。